



聖徒のための情報誌

今月号の内容

- 節分を通じて(1面)
- 島根県合同清道衆講習会報告
- よろこびちゃんの質問箱(2面)
- 法華経のお話・よろこび佛教語解説・日蓮大聖人の歩まれた道(3面)
- よろこび法話(4面)

平成25年(2013年)2月1日(金)

2月号

発行所  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町3-25-11  
九段中央ビル702  
日蓮宗霊断師会九段事務所  
電話 03-6272-9340  
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄  
編集人 松本 恵昌  
購読料 1部 105円  
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ  
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp  
よろこび投稿メール  
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

# 節分を通じて



御題目信仰をもつて  
心中の悪鬼を退治し、  
自他共の福を祈る



日蓮宗霊断師会 総合研究所 教育部長  
大分県大分市妙親寺聖徒団 団長  
廣田 学良

厳しい冬の寒さから春の訪れを待ち、暦の上では春季の到来です。一年の幸運と息災を願って、福は内鬼は外」と、声高らかに撒かれる福豆。人は誰れも幸せであることを願い、その為に種を蒔き、人生の舞台に幸福の花を咲かせようとしま

す。思えば我が国は四季豊かな風土に恵まれ、春夏秋冬の巡りの中、四季折々に順じた日本人特有の感性を文化の上に醸成してきました。

このように考えますと、人と、とりまく自然とは相即不離の關係「依正不二」にあり、環境は無意識のうち人に人の情操に影響を与え、また逆に人の思いと生活のありようは無意識のうちに自然環境に影響を及ぼしている事が理解されてきます。

これはかつてテレビで放送された一話です。ある農家の某氏、この方はキャベツ作りの名人。「どうしたらこんな立派な美味しいキャベツが栽培できますか?」と尋ねますと、「特にこれと言って秘訣があるのではありませんが、もしかしたら」と語られたのが実にユーモラスでありながら、佛教者の端にある私には興味深く、記憶に残るものでした。

それは毎朝、お日さまの昇る頃に畑に行き、ひとつく、丁寧にキャベツに手の平をあて、ありがとうございます。優しく声をかけると言うことでした。「ただ、それだけが違うことでしょうか」と言うお話。この「ありがとう」は誰れもが日



常に使う感謝の表現です。しかし、栽培に何十年と情熱を注ぎ、適した土壌に改良し、一途に歩き続けた農業人生。この人生の辛苦からにじみ出てくる感謝、そして愛情を含んだ「ありがとう」には、その道に生き、成し遂げた某氏の満足がうかがわれます。だからこの「ありがとう」にはキャベツの佛性を揺り動かす不思議で特別な念が用いられているのではありません。それが証拠に、後継者の息子さんが同じようにやっても普通であるとの事。

科学主導、合理一辺倒の人は滑稽な話と一笑に付し、信じ得ないかもしれないませんが、私はこの一話の温かさ、もう一つの真実、他と通う心に日蓮佛教と重なる素晴らしさを感じた次第でした。日蓮大聖人さまが松野殿女房へ認められた書簡に次の一節があります。濁れる水には月住まず、枯れたる木には鳥なし。心なき女人の身には佛住み給はず。法華經を持つ女人は澄める水の如し、釋迦佛の月宿らせ給ふ。

澄める水とは清らかな心、大慈悲の心を指します。この心は御題目を持つことによつてのみ成就され、その成就のところにこそ御本佛が御姿を顕わされるとの教えであります。つまり、御題目の受持信仰は、不思議にも濁心を浄心に転じ、御本佛のみ心と同心、通う心、するとの御教説であります。全国各地で賑やかに催される『節分追儼式』(嵯峨天皇以前から行なわれていたが、豆を打って邪鬼を追うのは室町時代になって始まった。「日蓮宗事典」より)。豆を撒いて福を呼び込み、鬼を追いつく。さて、この鬼とは一体何処を住家として、本当の正体は何者なのでしょう。ご存知のように昔話から想像する鬼は、角がはえ、牙を出し、イボイボの金棒をつき立て、言葉は荒々しく、恐ろしい面相であります。これはどう考えても人の心に住む自分勝手な心、無慈悲な振舞いという醜態を鬼と言葉で表現していると考えるのが現実的であると思われ



められた書簡に次の一節があります。濁れる水には月住まず、枯れたる木には鳥なし。心なき女人の身には佛住み給はず。法華經を持つ女人は澄める水の如し、釋迦佛の月宿らせ給ふ。

それでは幸福を勘違いする、人の心に住む三毒(貪・瞋・痴)の鬼をどうすれば退治できるのでしょうか。ここに正義の剣を携えた桃太郎ならぬ「南無妙法蓮華經」の利剣が登場することになります。心外に道をもとめ、萬行萬善を修せんは、例えば貧窮の人、日夜に隣の財をかぞえたれども半銭の得分もなきが如し。私たちが往々にして自身の外に憧れを懐き、自身の外に財宝があるかの如く錯覚しがちです。ところが幸福という名の財宝は、心内に生まれ持ったものであるという事に気付かなければなりません。第一の法華經の教えは、人間釋尊の開迹顯本(この身に密在する永遠なる自己の表明)を通じて私たちにそう語りかけているのです。ここから真実の自分が始動するのであると、日蓮大聖人さまは御題目の広布にその身命を捧げられたのであります。今社会は経済的財宝をなによりも

**津軽宇田山 閻法寺**  
2月24日(日) 午前10時半より  
副伝師円成  
**国 禱 会**  
〒030-1403  
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712  
住 職 工藤 堯幸  
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

**日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団**  
妙正寺聖徒団 鎌田 勲雄  
2月3日(日)11時 節分厄弘大祈禱会、積善涅槃会  
毎月1日午前10時 盛運祈禱会  
妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄  
〒071-1423  
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714  
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび  
**美濃乃國 常唱寺 聖徒団**  
〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

**妙顯寺**  
本山 佐野 日蓮大聖人御真骨奉安  
齊藤日軌貫首著  
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」  
国書刊行会  
CD「感謝百万遍陀羅尼」  
好評発売中!  
〒327-0843  
栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長  
感通寺聖徒団 団長  
新聞 智雄  
〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966

# 「島根県合同清道衆講習会」を開催!

昨年十一月二十五日、島根県浜田市龍泉寺を会場に、「島根県合同清道衆講習会」が開催された。

当日は雲ひとつない快晴に恵まれ、遠く出雲市から車で二時間半をかけて参加した聖徒団をはじめ、県内各地から七聖徒団・六十名の聖徒が集い、聖徒引率・スタッフとして十三名の聖徒団長、霊断師を加えた、総勢七十三名が受講した。

開講式は、龍泉寺聖徒団・笹部一眞団長御導師の下で法味言上。参加者全員で読経の後、テキスト「みおしえ」をもとに千葉県小泉輝泰講師(本部・新日蓮教学部長)が第二・第三講、宮崎県吉田憲由講師(本部・聖徒部長)が第一・第四講を担当して全四講に及ぶ講習会が始まった。

法華経がどのようにして日本に伝わり、それを日蓮大聖人がどのようにして布教していかれたのかを、小泉講師は落ち着いた口調で豊富な知識をもとに難しい言葉もわかりやすく丁寧に説明され、聖徒の面々は皆納得の表情を浮かべながら講義に耳を傾けた。



会場となった龍泉寺本堂



吉田憲由講師(本部・聖徒部長)より終了証の授与

を傾けた。

吉田講師は、聖徒と共にテキストを読んでいくなど、会場が一体となった講義を情熱的におこない、仏教や法華経の成り立ちについて、笑いを交えながらわかりやすく説明。最終第四講では、自身の経験をもとに、縁の大切さと、法華経、御題目を信じることで必ず救われることを熱く説かれ、九識霊断法を頼りとし、毎月の盛運祈願会への積極的な参加を勧めて講義を閉じられたが、聖徒はその姿に多くの人が涙を流して聞き入った。

講習会は、都合四時間に及ぶ長時間の日程であったが、参加者は皆講義に集中し、改めて信仰の大切さを心に刻んだ一日となった。

閉講式では、聖徒を代表して為久寺聖徒団・西尾清さんが吉田講師より修了証を授与。参加者一同、この講習会で学んだ感激を糧に、さらに志を高く持ち、各寺院の発展と、自分自身の信仰増進に繋げていく決意を誓い、無事盛会のうちに全日程を終了した。

終了した。

## 「島根県合同清道衆講習会」受講聖徒団

浜田市龍泉寺聖徒団 二〇名  
出雲市市満寺聖徒団 九名

## 「島根県合同清道衆講習会」感想文

龍泉寺聖徒団 川本 博文  
合同清道衆講習会にて  
陽光山龍泉寺様での

はじめて講習会に参加させて頂き、ありがとうございます。興味はありましたが仕事に疲れて、三日前に母に電話して空きがあるか確認をとってもらって参加させて頂きました。感謝しています。

積尊の教えでは、人を幸せにする宗教。宗教とは人生そのものであること。新しい仏教では、三国四師相承を学びました。人間の共通の願望は死にたくない。苦勞したくない。自由でいたい。平和に暮らしたい。「四徳波羅蜜多」です。真の幸福とは、人生に満足すること。

聖徒団の信仰のお話では、感動のあまり涙してしまいました。幸せになりたいより、誰かを幸せにする。人を幸せにする為に生まれている。親やご先祖様に感謝して、如来の使徒として生きていきたいいなと感じました。俱生神月守を身につけて参加させて頂き、心が洗われたと思います。

## 為久寺聖徒団 西尾 清

私は無知である。こんな私に、ご住職から清道衆講習会へのお誘いがあった。机を並べたが、講師先生の

同 市為久寺聖徒団 二名  
同 市法恩寺聖徒団 五名  
雲南市妙法寺番神聖徒団 八名  
益田市妙法寺聖徒団 十一名  
大田市妙法寺聖徒団 五名  
以上、七聖徒団・六十名

お話を聞いても理解できない。残念だ。しかし一つだけ耳に残った事がある。「夕日に感謝」の言葉である。朝日にばかり目を取られていた自分が恥ずかしかった。でも先生はお陽様だけのことをおっしゃったのだから。陽が落ちると次第に明るさを増してくるお月さま。一生懸命照らし続け、朝お陽様にバトンタッチ。お月さまに感謝かな。

いつも私たちを見守ってくれるのは何か。それを理解しようと「頭」で考えてる私が、また恥ずかしい。「心」で受け止められるよう、今後も精進すすめます。

## 法恩寺聖徒団 河原 治子

早起き苦手の私は、数日前になると行きたくない気持ちになるのですが、何故かお寺のこととなると、私の心中で疑問に思っていることが解けるのではないかと期待し、参加することにしています。

今年も若いお上人さま達の企画は新鮮で、行動もきびきびと気持ちの良い会となりました。一日の研修の中で印象に残った言葉は、「宗教は人生そのものである」です。

インプットしたものの、少々分かりづらく疑問が残るものなどありました。

いただいた「みおしえ」を開いて、良く読んで理解しようと思っっています。同じことで何度も耳を傾けたく

思いますので、次回も機会があれば参加したいと思いました。

いて、大変有意義な清道衆講習会となりました。

益田妙法寺聖徒団団長 蔵本 知宏  
信仰の大切さを情熱的に語ってくれた吉田憲由講師。優しく穏やかに、分かりやすく説明してくれた小泉輝泰講師。対照的なお二人の講義でしたが、これがとてもマッチして

## よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

### お灯明の消し方を教えて!

お仏壇のお灯明(おとうみょう)はおひかり(ろうソクの灯)は、吹き消してはならない"と言われているわね。

どうしてかしら?

昔から「火は穢(けが)れを焼き払う」ものとされていて、お仏壇の灯明も「その火をもって、清浄な空間を作り出す」と、考えられていたのね。(他にも、「ひかり・あかり」を献じるといった意味合いもあるそうよ。)

一方、人の吐く息は、一度外から取り込まれた空気が体の内を通って再び外に出てきたものだから、人間の穢れ(不浄)が混じり込んでいると考えられてきたのね。

つまり、灯明を息で吹き消す"ということは、せつかく作り上げた清浄な空間を、再び穢すことになるの。そういえば、仏壇に供える御膳やお仏飯なども、運ぶときに直接息がかからぬよう、口よりも上に持ち上げて運ぶのが作法と

言われているわ。

神主さんたちが、口に神(さかき)の葉をくわえるのも、息がからないように気を使うのと同時に、万が一、息がかかったとしても、神の葉の霊力でその穢れを浄化させるためのね。

だから「仏壇の灯明は、手やうちわなど、息のかからない方法で消すように」・・・と、なつたのね。



# 第三十回 日蓮大聖人の歩まれた道

## 虚空蔵菩薩への願い



総合研究所  
教学研究部長  
小泉 輝泰

「虚空蔵菩薩に願を立て云く、日本第一の智者となし給へと云云」  
(善無畏三藏鈔)

その日、清澄寺のご本尊としてご奉安される虚空蔵菩薩の前には、出家を果たし蓮長となつた若き日蓮大聖人のお姿がありました。蓮長は一つの大きな願いを胸に、虚空蔵菩薩に一心に祈りを捧げていたのです。「我をして、日本第一の智者となし給へ・・・」と。

虚空蔵菩薩は、東方大莊嚴世界と言われる浄土の菩薩さまで、五智宝冠(大日如来を始め、諸佛の智慧の冠)を頭に頂き、右の手には智慧の



利剣、左の手には福德の如意宝珠を持つて居ることから、廣大無辺の智慧と福德をつかさどる密教の菩薩として知られています。

蓮長が虚空蔵菩薩に智者第一の願掛けをしたエピソードは、多くの御一代記で語られるところですので、皆さんも何かの折にご覧になったことがあるでしょう。しかし、その内容が如何なるものであつたかは、意外とご存じないかと思ひます。後に日蓮さまがその詳細について触れられることはありませんでした。

ので、残念ながら正式な史実を知ることが出来ません。ですがこの時代に密教の盛んな清澄寺にあつて、虚空蔵菩薩への願掛けを行ったのであれば、おそらくそれは「虚空蔵菩薩求聞持法」であつたと思われま

「虚空蔵菩薩求聞持法」は、締め切つたお堂や洞のような空閑寂靜な場所に籠もり、百万遍もの陀羅尼(だらに) (神佛の発する呪文) をひたすら唱え続けるといふ、大変厳しい密教の修行です。その間は作法に従つてわずかな穀物や水を口にすることができ、睡眠もほとんど取ることがありません。近代となつても、希にこの求聞持法に挑む修行者がいることですが、聞き及んだところでは、あまりの極限状態に心身に異常をきたし、途中で断念する者はもちろんのこと、時には命を落とす者もいる程の荒行なのです。

この求聞持法は、通常五十日、ないし百日間で行うと定められているのですが、何と蓮長はわずか二十一日間でこれを成し遂げたとされています。

兵士のように、常に強い心で我が身の内にある悪と戦わなければなりません。その都度戦功を上げれば素晴らしい褒美(ご利益)を頂きますが、それに慢心することなく精進すれば、やがて王位(佛位)を譲られることと同様の価値のある「誓中の明珠」、つまり法華経の悟りを与えて頂くことが出来るのです。共にその高みを目指し、常に豊かな心でお題目の修行に励んで参りましょう。

「誓中明珠の喩」  
今月は「誓中明珠の喩」のお話です。この喩は、法華経の十四番目のお経「安樂行品」の中に説かれています。「安樂行」と聞くと、なんだか苦勞もせず簡単に出来る修行を指しているように思えるのは、私だけでしょうか。「安樂行」とは、安らかな気持ちで自ら樂つて修行する、あるいは教えを説くという意味です。外からではなく、自分の内心の誘惑に負けない心掛けを、親子を諭すような静かなお気持ちでお説きに



総合研究所  
霊研主任  
新聞 信應

# 第十九回 よろこび 佛教語解説

なられたのが、安樂行の教えなのです。その中に、今回の教え「誓中明珠の喩」があります。ある大国の王が、命令に従わない小国に戦を仕掛けて滅ぼしました。戦功のあつた者に対し、土地や衣服、車馬、宝石を褒美として与えたのですが、たつた一つしかない王の鬚の中の宝珠(明珠)だけは決して与えませんでした。それをもしみだりに与えてしまうと、王位を譲つたと勘違いした諸人が驚き怪しむので、容易に人に授与することが出来なかつたのです。王はこの宝珠(明珠)を、いずれは最大の戦功者(明珠)のみ与えようと密かに考えていたのです。

この王とは佛さまを指し、兵士とは私たち凡夫を指し、誓の中の明珠は最高の教えである法華経を示しています。私たち凡夫は、王の命令に従う



# 法華経のお話 19



総合研究所主任  
塩入 幹丈

## 無量義経の段その十八

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①「たとえ明日、世界が滅亡しようとも、今日私はリンゴの木を植える」  
(マルティン・ルーター)

ノストラダムスの大予言以来、久しぶりの大ネタとなつた二〇一二年十二月二十二・二十三日のマヤ歴大予言も、(当然ながら) なにごともなく過ぎ去つてしまいました・・・

されど安心するのにも束の間、今後のスケジュールとしては、二〇一五年マヤ歴再解釈の滅亡予言、二〇一七年ダニエル書(旧約聖書の一部)の終末預言、二〇二〇年マヤ・インド歴合体の終末予言、二〇三〇年聖徳太子「未來記」(偽書ですけど)の滅亡予言、二〇三九年アドルフヒトラーの旧人類消滅予言、二〇六〇年アイザック・ニュートンの滅亡予言等々と、まさに息つく暇もない滅亡のラッシュアワー状態・・・

②「時間が過ぎ去っていくのではなく、われわれが過ぎ去っていくのだ」  
「なんで二十一世紀は滅亡のテンコ盛りなんだ！」と、思わず叫んでしまうところでしょうが、実はこれ、何も今世紀だけの話ではありません。もともと人類の歴史に、滅亡予言は付きものなのです。

「浜の真砂は尽きるとも、世に滅亡予言の種は尽きないもので、既に期限切れになつた滅亡予言の数などは、とてもとても数えられるもんじゃありません。」



そんな無数の滅亡予言の元ネタとも言うべき、最大最強の予言と言え、約聖書の四つの福音書なのです。そう、キリスト教とはそもそも、ナザレのイエスの言葉「悔い改めよ、天の国は近づいた」を信じ、終末の時に備えるための宗教。いわば二千年を超えて滅亡の日を待っているわけです。

③「チャンスは扉を二度叩かない」  
(ニコラス・シャンプオール)

キリスト教(と同じくユダヤ教を母胎とするイスラム教においては、世界は唯一神によって創造され、やがて唯一神によって滅ぼされるもの。スタートして只ひたすらゴールにむかつていく、いわば一回限りのもの。ゆえに人間の人生もただ一回だけの勝負。

キリスト教(またはイスラム教)から観て、正しいといえる人生を送れたら、滅亡後の栄光が約束されますが、しくじつたら最後、永遠の地獄行きが確定します。

まさに一度のチャンスで勝ち組負け組を決めるシビアナな教え。当然、キリスト教を知らない人、キリスト教以前の時代の人は、もうそれだけでアウトなわけです。(ゆえに紀元前に存在した立派な人、徳のある人たちはどうなるのか、神父さんたちの間でも喧々譁々だったそうです)

④「ドアが一つ閉まると、もう一つが開く」 (ヘレン・ケラー)

一発勝負のキリスト・イスラム教に対し、輪廻転生を説く佛教は、何度でもチャンスが貰える。再チャレンジ、負け組救済の教えと言えらるでしょう。

命が生死を繰り返すように、宇宙もまた、繰り返していくと考えます。同じ下降史観であっても、キリスト教が宇宙は創造から滅亡へと、ただ一直線なのに対し、佛教は誕生・発展・衰退・滅亡を二サイクル(四劫)とし、これを無限に繰り返していくと説くのです。

しかもその一サイクルごとに、三千人の佛さまが順次に降臨されるそうです。

佛さまが降臨されている時代は佛の世。その佛さまがご入滅(お亡くなりになること)された次の日から、千年間は佛法が正しく伝わる時代(正法)、次に教えが形骸化する時代(像法)、そして教えが廃れ、世が乱れた時代が万年(末法)と、段々に下降していき、その果てにまた、次なる佛さまが登場されて、リセットされるというわけです。

そして現在、平成二十五年は西暦(ナザレのイエス誕生から)では二〇一五年ですが、佛紀(お釈迦さまが入滅されてから)では既に二九六二年! そう、まさに末法のド真ん中なわけです・・・



# よろこび法話

## 今こそ悪者になろう！



日蓮宗断絶会 総務部 齋藤 孝雄  
和歌山県紀美野町龍光寺聖徒団団長

松森 孝雄

タイトルを見て「え？なに血迷ったことを……」と思われたことでしょうか。

『よろこび』は、日蓮宗断絶師会の誇る教誌です。聖徒の皆さんの日々の信仰生活の指針となり、また活力となるこの誌面で、こともあろうに「悪者になろう」とは何事か！？

倫理道徳の価値観で「悪者になろう」と聞けば、お叱りをうけるのはごもっとも。ここはちよつと心穏やかに一歩引いて聞いてください。

私たちは日常生活の中で、ほんの些細なことでも腹を立てたり、喧嘩をしたり。その

場所も家庭内であったり、学校であったり、会社であったり。でもそれらの立腹によって、その後に満足したことがあるでしょうか？「ああ、あの時に腹を立ててよかったー！」と思ったことはあるでしょうか？なかなかないですよ。むしろ「後味の悪さ」が残っていることが多いんですよ。それらの多くを回避するためには「悪者」になるのが一番の解決策だったりするのです。

例えば……。

キッチンを歩いていて、テーブルにぶつかってしまった。その時にテーブルの端に置いてあったコップが落ちて割れてしまいました。

さて、この時、皆さんならどう処理するでしょうか？

よく喧嘩をする家庭では「誰だ！こんなところにコップを置いておいたのは！」となり、「気をつけて歩かなかつたお前が悪い！」と反抗され、「ここにコップがあつたことを知りながら、すぐに洗って片付けなかつたお前が悪い！」と飛び火します。ここで容易に想像できる光景ですよ。ここで

この家族の言い分を聞いて、誰が悪者でしょうか？そんなんです、悪者はいないのです。みんな他人のせいにするから、みんな自分は「善人」になっているのです。これだと喧嘩は絶えません。

みんなが「悪者」になるとどうでしょうか？

「気をつけて歩かなかつた自分が悪かつた」と謝り、「いやいや、飲んでそんなところに置いた僕が悪かつた」と反省し、「そこにあるのを知っていたのに、すぐに洗って片付けなかつた私が悪かつた」と後悔する。

どうでしょう？お互いが「自分が悪かつた」と「悪者」になると喧嘩にならないですよ。

全く同じ事象でも、その時の心がけひとつ（善人になるか悪者になるか）で、その結果がまったく変わってしまうのです。私たちの日常の中の些細な喧嘩の多くは、このように心がけひとつで回避でき、立てなくていい「腹」がたかさんあるのです。

倫理道徳では「他人に迷惑をかけるな」と教えます。でも、みんなが誰ひとりとして例外なく繋がっているという「縁起」を説く佛教では、他人に迷惑をかけて生きている」と教えます。

「迷惑をかけるな」と「迷惑をかけて生きている」というのは全く違います。

「迷惑をかけるな」というのは「善人になれ」ということですが、「迷惑をかけて生きている」というのは「み



んな悪者なのだ」と教えているのです。迷惑をかけずに生きていくことなんて不可能です。でも「迷惑をかけるな」と教えられて、自分が迷惑を被つたら「迷惑をかけるな」という努力を怠つたお前が悪い」と、またしても自分が「善人」になつてしまつて喧嘩の発端に……。

しかし「迷惑をかけて生きている」ことを知ることによって、自分が迷惑を被つた時に、「自分も同じような迷惑を他人にかけているかもしれない」と気づくのです。その気づきが「赦し」に変わり、反省に発展し、「懺悔文」につながっていくのです。

もちろん「他人に迷惑をかけてはいけない」という努力は必要です。努力目標としての「道徳教育」と、他人との関わりの中で生じる摩擦に対する潤滑油としての「宗教教育」を心がけることによって、私たちは誰もが皆「常楽我浄」のひとつである「楽」＝「楽しく生きたい」という理想に、一歩近づけるのです。

本誌イラスト 小川けんいち

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是眞

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**正立山 妙法寺番神聖徒団**

団長 新聞 信應

毎月1日 10時  
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市  
三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

安房乃國随一  
三十番神祈願道場

**顕本寺聖徒団**

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻  
内陣荘厳具 設計製作

**(株)中野三佛屋**

東京都台東区寿2丁目7の12  
電話 03 (3843) 6951  
FAX 03 (3843) 6973  
定休日 日曜日

手描絵、機械絵、冊子、  
広告、絵画、写真集、  
神絵、名刺、葉、

**Syoumukou**  
株式会社 昇夢虹 (しょうむこう)

〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号  
TEL (0166) 68-2004 FAX (0166) 68-2005  
<http://syoumukou.com>  
info@syoumukou.com